



News Letter

ニューズレター



No. 10

2024年7月発行

WEBサイトはこちら▼



お問い合わせ/広島大学大学院 人間社会科学研究所 教職開発専攻(教職大学院) 広報担当:伊藤 優
東広島市鏡山1-1-1 TEL:082-424-7166 e-mail:yitou@hiroshima-u.ac.jp https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/letter.html

新入生インタビュー

今年度入学した広島大学教職大学院の1年生にインタビューをしました



大下 ●なぜ広島大学教職大学院に入学しましたか。
天岡 ●もともと岡山大学の理学部で生物の研究をしていました。教員になりたかったのですが、教員採用試験の勉強をする際に、自分が教育について知らないことが多いことに気づきました。そこから、教職大学院の2年間でもう一度勉強してみようと考えようになりました。教職大学院について調べている中で、広島大学教職大学院の内容が一番充実していると感じ、ここに来ることを決めました。
大下 ●実際に入学してみてもいいかがですか。
天岡 ●想像以上に充実しています。自分のやりたい研究ができていますし、同じ志を持った人が集まっているので、授業でもそれ以外の場面でも、楽しく勉強になると感じています。
大下 ●重廣先生はどのようなきっかけで広島大学教職大学院に来られたのですか。
重廣 ●これまでいろんな実践をしてきました。ある授業の話し合いの中で良い意見を言う子がいたので、その子はテストであまり良い点が取れていませんでした。その時に、文章を「読む力」について本質的に立ち返って考えてみたくなりました。そのためにもう一度しっかり勉強したいと考え、教職大学院を志望しました。
大下 ●実際に入学してみてもいいですか。
重廣 ●大学の先生にすぐ相談することができる点など、環境として恵まれていると感じます。
大下 ●重廣先生はストリート院生(学部卒院生)と勉強されてみてどのよう感じられますか。
重廣 ●刺激になっていますね。ストリート院生からは、教職経験にとらわれない自分、多様な意見が出てくるので、自分自身も勉強になる場面がたくさんあります。
大下 ●ありがとうございます。次のテーマについてですが、これからの2年間で、どのような研究をしたいと考えていますか。舟津さんお願いします。
舟津 ●政治参加を促す歴史の授業を考えていきたいです。今の社会科の課題としては、暗記中心となっていることや、現代史などの歴史が現代とのつながりを感じにくいことがあげられます。その課題を解決するため、生徒が自分自身と社会科のつながりを感じられるような授業づくりを行ってきたいと思います。
大下 ●杉原先生お願いします。
杉原 ●生徒も教員もともに学び続けることができる学校づくりについて研究していきたいです。また、保護者や地域の人を巻き込んだ学校づくりについても考えていきたいです。



インタビューの一場面

✎写真左より
重廣 孝
 教育実践開発コース1年(現職院生)
杉原 慶一
 学校マネジメントコース1年(現職院生)
大下文都
 教育実践開発コース2年(学部卒院生)
天岡 友穂
 教育実践開発コース1年(学部卒院生)
舟津 実緒
 教育実践開発コース1年(学部卒院生)

執筆:インタビュー 大下文都 (教育実践開発コース2年)

授 業 紹 介

『授業研究の開発実践』

担当 (ICTを含む) 大後戸 一樹先生・中島 敦夫先生・渡辺 健次先生

教職大学院では、各学年前期と後期に1回ずつアクションリサーチ実地研究があります。後期の実地研究は、主に10月~11月頃行われ、その実地研究終了直後からこの授業が始まります。本授業では、院生が実地研究での授業実践を持ち寄り、多くの院生と議論する中で授業改善の視点を見つけていきます。しかし、授業実践についてただ良いところや悪いところを指摘し合うだけではありません。実践をした院生が、自分なりの主張点(授業において重視した点)を明確にした上で、その主張点に沿って議論が行われます。例えば、「私はこの授業において、〇〇に重点を置いた結果、子どもの姿が〜に変わった。〇〇という手立ては、□□力をのばすために有効であったか」などが議論の軸となります。そのため、議論の視点が絞られ、より深い議論ができます。さらに、様々な教科・校種でグループが構成されるため、普段のゼミで行っている議論にはない、新しい視点を得ることができます。

授業名に(ICTを含む)とありますが、授業では、情報教育がご専門の渡辺健次先生から Chat GPT や Google classroom の活用法についても、ご指導をいただきます。これらのツールを実際に使ってみることで、学校現場で活用する上でのメリットやデメリットを知ることができます。

執筆 山田 竜誠 (教育実践開発コース2年)

『現代の教育改革』

担当 鈴木 由美子先生・藤川 照彦先生・中島 敦夫先生



広島大学 Town & Gown Office見学の風景

本授業では、現代の教育改革の動向を学びながら、関連する施設見学を行い、現代の教育改革プランについて検討します。現代の教育の課題や先進的な取り組みについて実践的に理解を深められる授業です。

令和6年度は、広島県内で教育改革を推進している学校・施設(広島平和記念公園、広島大学 Town & Gown Office、広島県立図書館、広島市立広島商業高等学校)に見学に行きました。見学前には、院生によるグループを中心に各施設について事前学習を行い、院生一人ひとりが視点を持って各施設の特色ある活動について主体的に学ぶことができます。見学後には、広島県の「学びの変革」アクションプランや広島市の平和教育等、特徴的な教育改革の動向を踏まえて現代の教育改革プランを検討します。教職経験や専門の校種・教科の違いから、多様な視点で意見交流を行ったり、授業担当者の豊富な教職経験に基づく助言・指導を受けたりすることができます。日々変化していく教育現場で、現在の教育がどのような状況にあり、どのような改革が求められるのかを幅広い視点から考えてみたい方におすすめの授業です。

執筆 安竹 七菜 (教育実践開発コース2年)

生徒の抱える「不安」に着目しながら「意欲」を醸成する英語科授業の研究

吉岡 陽 (教育実践開発コース2年)

グローバル化にともない英語の必要性が一層高まっていることや、日本人の英語力が課題になっていることが数々の研究で示唆されています。中学校英語科においては、全国学力テスト(2023)の結果から、4技能全般、特に「話すこと」において課題が顕著でした。

このことから、英語で話す経験を積み重ねられるようにするために、授業を実際のコミュニケーションの場とすることが大切であると言われています。生徒の「話すこと」の技能向上を図る前提には、「英語で話したい」という意欲を育成することや、英語で話す必然性を感じさせることが必要だと考えています。

このような問題意識から、「話すこと」の技能向上を図るために、英語不安軽減に着目した授業実践を行ってきました。1年目の研究からは、生徒たちが4技能のうち「話すこと」を最も伸ばしたいと感じている一方、他者不安や言語不安を抱えていることがわかりました。そのような英語不安の軽減を図りながら、「話すこと」の意欲を高められる指導法を今年度も検討します。



▲授業実践の風景

幼児の感情調整の発達を支えるための園内研修の試み

君岡 智央 (教育実践開発コース2年)

幼児は園生活の中で、悔しさ、さみしさ、嫌悪感などの不快感情を抱くことはよくあることです。それらの感情を自分で或いは、友達や保育者に支えられながら調整していくことは、目的に向かっていきめずに取り組むことや、良好な友達関係の構築などにつながります。一方で現場では、担当する幼児の数の多さ、デイリープログラムによる時間的枠組みにより、保育者にゆとりがない状態が生じ、感情調整よりも幼児の行動調整を優先せざるを得ない状況があります。

そこで、アクションリサーチ実地研究では、幼児の感情調整の発達を支えることを目的とした園内研修を試み、対象の先生にどのような学びが得られたのかを明らかにしています。研修のコンセプトは、「互いに学び合う」です。私も現場では幼児の感情表出に対し、どのようにかかわるべきか悩むことがあります。実践記録を用いた保育カンファレンスなどを行うことにより、対象の先生にも私にも感情調整を支えるための視野が広がっています。

私の研究



院生の研究内容をご紹介!

ご指導いただいている先生方の教育・研究より

先生のおすすめの1冊

道徳教育を通して、子どもがそれぞれの幸福のあり方を考え、幸福観を広げてほしい

教育実践開発コース

宮里 智恵 先生

みやさと ともえ

大学院人間社会科学部 教授
専門分野: 道徳教育、教育課程論



宮里先生は、道徳教育や教育課程論を専門とされています。

今回おすすめいただいた本は、「これからの幸福について—文化的幸福観のすすめ—」(内田由紀子著 新曜社 2020)です。

宮里先生は、これまで数々の道徳の授業をご覧になってきました。そんな中、ある授業では、「絆」をテーマに考え続ける道徳教育が実践されていました。宮里先生はこの「絆」という授業テーマと、「考え続ける」という授業スタイルに深く共感されたそうです。それは、宮里先生ご自身、子どもの生き方やウェルビーイングの向上につながる授業を実践したいと考えておられたからだそうです。

そんな時に出会われたのがこの本でした。本のテーマでもあるこれからの幸福について宮里先生は、「幸福の尺度は自分の中に持つべきではないか」と語ってくださいました。さらに、「私たちは金銭的な豊かさを幸福の尺度と捉えがちですが、世界で最も幸福度が高いと言われるブータンは、世界で最も貧しい国と言われています。つまり、幸福かどうかは、その人の心が決める部分もあるということです」とおっしゃっていました。道徳教育を通して、子どもがそれぞれの幸福のあり方を考え、個人の幸福から家族・友人、社会、国へと幸福観を広げてほしいという熱い思いを語ってくださいました。



「これからの幸福について—文化的幸福観のすすめ—」(内田由紀子著 新曜社 2020)

執筆

山口 絢星

(教育実践開発コース2年)

薦池 明日香

(教育実践開発コース1年)

経験を成長につなげるように意味付けをして大きく前進してほしいと思います

教育実践開発コース

松浦 武人 先生

まつら たけと

大学院人間社会科学部 教授
専門分野: 授業構成論、学習指導論、算数科教育



松浦先生は、初等教育段階における確率概念形成に関わる研究をされています。

松浦先生は、幼いころから本を読むことが好きで、科学、哲学、教育学、文学とともに、多くの自己啓発書を読まれてきたそうです。

今回は、おすすめの本として、「英語でたのしむ「アドラー心理学」」(小池直己著 PHP文庫 2016)を紹介していただきました。この本は「自己啓発の父」と呼ばれるアルフレッド・アドラーの思想や人生観が、英文(日本語対訳付き)で紹介されています。

"No experience is in itself a cause of success or failure. We are not determined by our experiences but are self-determined by the meaning we give to them."

これは、この本の中で松浦先生が特に好きな一節で、英語版「座右の銘」だそうです。さらに、「院生のみなさんは、教職大学院の生活を通して、またその後の教員生活や社会人生活において、いろいろな経験をすることになります。その経験を、自分の夢や目標の実現・成長につなげるように意味付けをして、明るく、大きく前進してほしいと思います」というメッセージもいただきました。私たちもこれまでの経験をどのように捉えるのか、どう意味付けし、生かしていくのかを考えながら、これからの経験をよりよいものにできるような学びをしたいです。



「英語でたのしむ「アドラー心理学」」(小池直己著 PHP文庫 2016)

執筆

岩野 正弘

(教育実践開発コース2年)

井上 翔太

(教育実践開発コース1年)

高田 慶人

(教育実践開発コース1年)

学校心理学に基づくケースレポートの書き方等について書かれたおすすめの1冊

教育実践開発コース

高橋 均 先生

たかはし ひとし

大学院人間社会科学部 講師
専門分野: 教育心理学、対人スキル指導



高橋先生は、心理学の視点からアサーションや社会的スキル等について研究しておられ、心理学、教育心理学を専門とされています。

今回おすすめいただいたのは「学校心理学ケースレポートハンドブック:子どもの援助に関わる教師・スクールカウンセラーのために」(学校心理学士認定運営機構編 風間書房 2021)という、学校心理学に基づくケースレポートの書き方等について書かれた1冊です。ケースレポートの意義や構成等、基礎的な事項や例、執筆における留意点をわかりやすく学ぶことができます。

おすすめいただいた理由は、複数のケースレポートと解説が挙げられているところが勉強に役立ったようで、個人やグループに対して行った心理教育的援助について幼児、小学生、中学生など幅広いケースが紹介されている点です。また、この本の印象に残っている部分は、ケースレポートだけでなく、実践と援助の研究と倫理についても学ぶことができる点を挙げさせていただきました。

学校心理士の資格取得を目指し、ケースレポート作成の際に勉強になることが多い書籍のようです。レポートの書き方だけでなく、子どもの心理教育的援助の際にも参考になる本なので教育関係で働く方にもおすすめの1冊です。不登校生徒の援助など具体的なケースも掲載されているようなので、ぜひ読んでみたいですね。



「学校心理学ケースレポートハンドブック:子どもの援助に関わる教師・スクールカウンセラーのために」(学校心理学士認定運営機構編 風間書房 2021)

執筆

吉田 有希

(教育実践開発コース2年)

奥 芳樹

(教育実践開発コース1年)

編集後記/第10号

ニュースレター第10号をご覧いただきありがとうございます。この節目の号を迎えることができたのも、皆様の温かいご支援と愛読のおかげです。今回は、4月に新しく迎えた新入生へのインタビューを掲載しました。新たなメンバーと共に今年度も学び合えることに胸が高鳴りました。今後もニュースレターでは、広島大学教職大学院の日々の様子や取り組み等をお伝えしてまいります。

担当/ 後藤 湊
(教育実践開発コース2年)